

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析について

標記の件について、下記のとおり公表いたします。

記

1 調査の結果（更新）

このたび、文部科学省から中学校英語「話すこと」を追加した調査結果が県教育委員会に提供されました。当課が 8 月 3 日にお示ししました新潟県内の公立小中学校の平均正答率(%)および中学校の英語の平均 IRT^{※1}スコアについて、下表のとおり更新いたします。

小学校＜国語＞

新潟県	全国
58	60.9

小学校＜算数＞

新潟県	全国
55	56.4

中学校＜国語＞

新潟県	全国
62	63.9

中学校＜数学＞

新潟県	全国
54	57.0

中学校＜英語 4 技能＞

新潟県	全国 ^{※2}
481	499

※1 IRT とは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じ尺度で比較するためのものです。IRT スコアとは、IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準に算出した値です。

※2 中学校＜英語 4 技能＞の全国の対象は、統計的に抽出され、「話すこと」の調査を 4 月 24 日または 27 日に実施した国公私立学校の生徒です。

2 調査結果の分析

教科及び質問調査の結果の分析については、別添の資料をご覧ください。

※ 本紙及び別添記載の数値について、新潟県、全国ともに政令市を含みます。

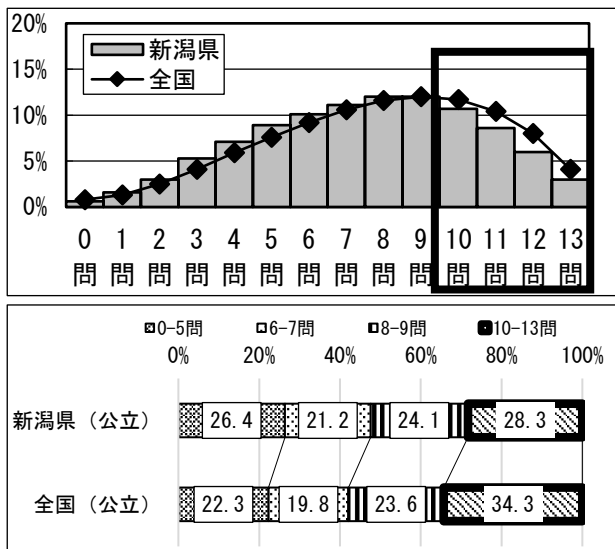
本件についてのお問い合わせ先
義務教育課指導第 1 係 高橋
(直通) 025-280-5604 (内線) 3859

各教科の正答数ごとの分布分析

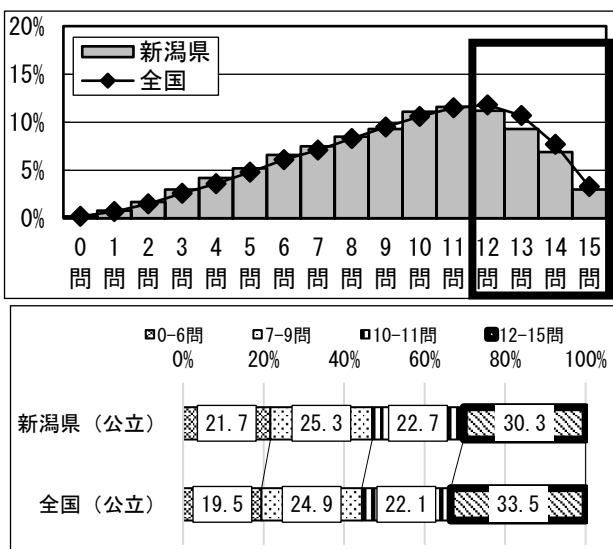
上段：正答数分布グラフ
下段：正答数ごとの層分布

資料

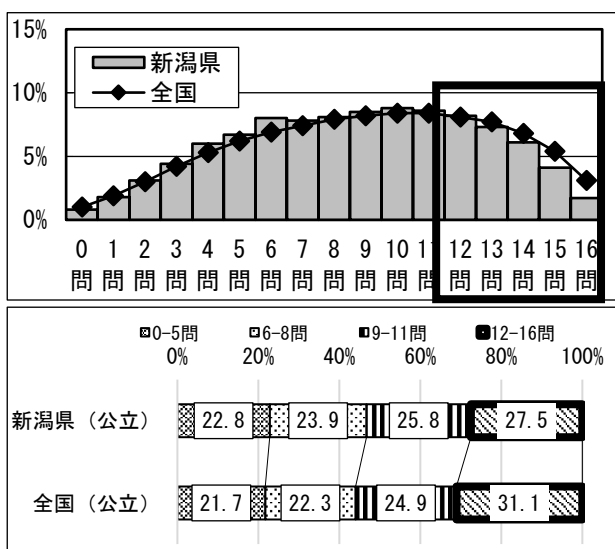
小学校 <国語>



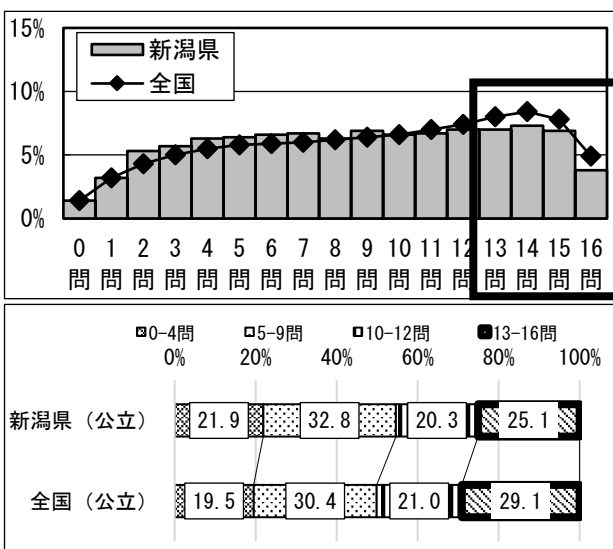
中学校 <国語>



小学校 <算数>



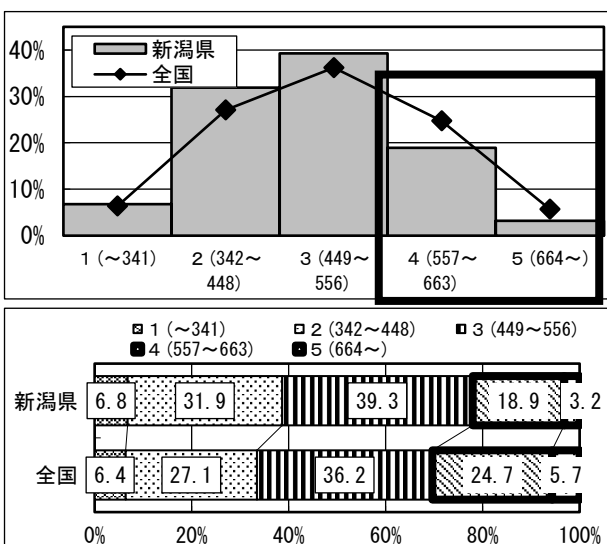
中学校 <数学>



分析

全教科において、正答数が多い児童生徒の割合が全国平均を下回っている。そのため、学習に困難を抱える児童生徒への補足的な学習支援の充実に加え、上位層の児童生徒の学力をさらに伸ばすための支援も必要である。具体的には、発展的な学習課題を設定したり、学んだことを活用する場を意図的に設けたりするなど、授業改善を図る必要がある。

中学校 <英語 4 技能> IRT バンド



各教科の結果分析

1 国語

(1) 小学校第6学年

【問題別調査結果】

分類		区分	問題数 (問)	平均正答率（％）	
				新潟県（公立）	全国（公立）
全体			13	58	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	62.2	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	49.9	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、表現力、判断力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.0	65.8
		B 書くこと	2	42.6	45.7
		C 読むこと	2	63.2	65.9
評価の観点		知識・技能	6	58.1	62.0
		思考・判断・表現	7	57.6	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	59.3	61.9
		短答式	2	56.9	62.6
		記述式	2	52.1	54.9

【平均正答率が特に低い問題】

問題番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
2四	文章の続きを、「集めた情報」から抜き出して、考えが伝わるように書く【思・判・表／記述】	30.5	33.5
2三イ	文章の一部を、漢字を使って書き直す「ふしぎ」【知・技／短答】	37.2	45.2

【平均正答率において全国との差が特に大きい問題】

問題番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
2三イ	文章の一部を、漢字を使って書き直す「ふしぎ」【知・技／短答】	37.2 (-8.0)	45.2
3二	文章中の情報についてメモにどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する【知・技／選択】	50.7 (-4.9)	55.6

分析

学習指導要領の内容別では、知識及び技能に課題が見られた。具体的には、漢字を書く問題において、日常的に使用する漢字の定着が十分ではないことがうかがえる。また、情報をまとめたメモを基に複数の情報の関係を捉える問題において、情報同士を関連付けて理解することに課題が見られた。漢字や語彙の確実な定着を図るとともに、情報を関連付けて整理・理解する学習活動や、自分の考えを文章で表現する機会を意図的に設定し、記述力や情報を整理・活用する力を高める指導が必要であると考えられる。

(2) 中学校第3学年

【問題別調査結果】

分類		区分	問題数 (問)	平均正答率 (%)	
				新潟県 (公立)	全国 (公立)
全体			15	62	63.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	61.6	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	67.2	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、表現力、判断力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.3	63.9
		B 書くこと	3	66.5	67.4
		C 読むこと	3	58.5	59.7
評価の観点		知識・技能	6	62.6	64.2
		思考・判断・表現	9	62.1	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	70.9	72.7
		短答式	3	54.4	55.8
		記述式	3	44.3	45.5

【平均正答率が特に低い問題】

問題番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
4二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す【知・技／短答】	34.4	35.2
3一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する「とる」【知・技／短答】	37.0	39.8

【平均正答率において全国との差が特に大きい問題】

問題番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
2四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く【思・判・表／記述】	49.1 (-3.6)	52.7
2三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する【知・技／選択】	67.2 (-3.2)	70.4

分析

問題形式別に見ると、記述式問題において正答率が低く、無解答率も高い。具体的には、複数の情報を整理・要約して関係を捉える問題や、自分の考えを記述する問題に課題が見られた。情報を関連付けて考えたり、自分の考えを文章で表現したりする力に課題がある。情報を整理して考えをまとめる学習活動や、記述する機会を充実させるとともに、自分の考えを記述した内容を吟味し、不足している点を改善する指導をとおして、粘り強く取り組む態度を育成する必要がある。

2 算数・数学

(1) 小学校第6学年

【問題別調査結果】

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率（％）	
			新潟県（公立）	全国（公立）
全体		16	55	56.4
学習指導要領の 内容	A 数と計算	8	58.4	61.1
	B 図形	4	53.4	55.3
	C 測定	1	76.5	78.1
	C 変化と測定	3	40.1	41.1
	D データの活用	4	45.3	48.6
評価の観点	知識・技能	12	58.1	60.1
	思考・判断・表現	4	44.0	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	55.2	56.0
	短答式	8	57.8	59.7
	記述式	3	44.9	48.5

【平均正答率が特に低い問題】

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
4(3)	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く【知・技／短答】	14.3	17.9
2(4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図を二つ選ぶ【知・技／選択】	29.0	34.2

【平均正答率において全国との差が特に大きい問題】

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
2(4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの 1.5 倍になっている図を二つ選ぶ【知・技／選択】	29.0 (-5.2)	34.2
1(4)	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、示されたまとめ方の場合の送料の求め方とその答えを書く【思・判・表／記述】	40.3 (-4.9)	45.2

分析

学習指導要領の内容別では、「データの活用」で、問題形式別では記述式の問題で全国平均との差が大きい。具体的には、1(4)「図形を構成する要素に着目し、状況から調べたい数量を見出し、その求め方を数や言葉で記述する問題」での正答率の差が大きい。単に答えを求めるだけでなく、「なぜその考え(式)に至ったのか」を言葉や図、式を用いて説明し合う言語活動を日常の授業の中に意図的に取り入れる必要がある。

(2) 中学校第3学年

【問題別調査結果】

分類	区分	問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			新潟県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	54	57.0
学習指導要領の 内容	A 数と式	5	65.3	67.8
	B 図形	4	45.6	48.7
	C 関数	3	51.4	54.8
	D データの活用	4	51.2	53.5
評価の観点	知識・技能	12	60.4	63.0
	思考・判断・表現	4	35.9	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	57.2	59.3
	短答式	9	61.4	64.2
	記述式	4	35.9	39.1

【平均正答率が特に低い問題】

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
9(3)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する 【思・判・表／記述】	29.9	31.9
7(2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を説明する【思・判・表／記述】	30.1	33.9

【平均正答率において全国との差が特に大きい問題】

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
5	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める【知・技／短答】	54.6 (-5.6)	60.2
8(1)	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く【知・技／短答】	57.7 (-4.8)	62.5

分析

問題形式別に見ると、記述式問題において全国平均との差が大きく、正答率自体も低い。具体的には、主張の理由を二つの度数分布多角形の形や位置を比較して説明する問題において、形の違いについては説明できているものの、位置の違いについて適切に表現できていない状況が見られる。「位置が異なる」と述べるだけでなく、主張に応じて、位置がどのように違うか具体的に表現する力に課題がある。自分の書いた理由が主張に十分かどうか吟味する活動を充実させる必要がある。

また、知識・技能についての問題にも課題が多い。確率を求める問題で、すべての場合を漏れなく考えるために樹形図や二次元表などを用いて整理するなど、基本的な方策の理解が必要である。

3 英語

(1) 中学校第3学年

【問題別調査結果】（公開問題分）

分類	区分	問題数 (問)	正答率の平均 (%)	
			新潟県 (公立)	全国 (公立)
全体			44.9	48.7
学習指導要領の 領域	(1) 聞くこと	5	58.6	62.8
	(2) 読むこと	5	57.6	60.0
	(3) 話すこと [やり取り]	3	28.8	34.9
	(4) 話すこと [発表]	4	31.0	35.8
	(5) 書くこと	6	40.1	43.1
評価の観点	知識・技能	7	45.1	49.1
	思考・判断・表現	16	44.8	48.6
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	10	58.1	61.4
	短答式／口述式	5	38.5	43.3
	記述式／口述式	8	32.4	36.3

【平均正答率が特に低い問題】

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
19	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す【話す [発表] / 思・判・表 / 記述口述】	17.7	23.0
18	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を1つ取り上げ、その理由を話す【話す [発表] / 思・判・表 / 記述口述】	18.7	21.7

【平均正答率において全国との差が特に大きい問題】

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)	
		県	全国
15(2)b	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する【話す [やり取り] / 知・技 / 短答口述】	23.1 (-7.6)	30.7
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する【聞く / 思・判・表 / 選択】	48.2 (-7.4)	55.6

分析

学習指導要領の領域別では、「話すこと」で、問題形式別では短答式／口述式の問題で全国の正答率の差が大きい。「話すこと」において、情報を伝えることに比べ、自分の考えや理由を整理して相手に伝えることに課題が見られる。また、全国と比較して無解答率が高く、特に相手への依頼や社会的な話題について考えと理由を述べる場面で、発話に至らない生徒が多い。「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を実際にコミュニケーションにおいて活用できる技能」の育成に加え、「何を伝えるかを考え、内容を整理してから英語で表現する」学習過程を重視する必要がある。

学習状況調査（児童生徒質問調査）の結果分析

数値は肯定評価の割合合計、単位は％
網掛けは全国平均と比較して懸念される方向に3ポイント以上の差がある項目

1 生活習慣に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
1	朝食を毎日食べている	95.2	93.3	93.1	90.9
4※	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（学習とゲームをする時間は除く）	【3時間以上】			
		42.4	37.6	52.3	49.6
		【2時間以上】			
		67.3	57.6	80.0	74.9

※ 4について、【2時間未満または持っていない】と【2時間以上】の児童生徒の各教科平均正答率

	2時間未満または持っていない	2時間以上
小 国語（全国 60.9）	62.3	55.9
小 算数（全国 56.4）	59.4	52.4
中 国語（全国 63.9）	68.7	61.6
中 数学（全国 57.0）	64.1	52.9

分析

朝食を毎日食べる習慣は全国平均を大きく上回っており、一日の活動や学習を始めるためのエネルギーが家庭でしっかりと確保されている。

小学生の約3分の2、中学生の8割が毎日2時間以上、半数以上が3時間以上をスクリーンタイムに費やしている。「2時間未満または持っていない」という児童生徒の平均正答率はすべての教科で、全国平均を上回っている。このことから、長時間のメディア接触が、後述する家庭学習時間や読書時間を圧迫し、低い正答率につながっている直接的な要因と考えられる。

2 家庭での会話、サポートに関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
6	学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか【ほぼ毎日＋週1～2回】	76.3	75.0	70.1	72.2
29	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）【100冊以上】	26.3	30.7	27.6	31.2

分析

家庭にある本（雑誌・教科書等除く）が「100冊以上」と答えた割合が全国よりも低く、日常的に活字や本に親しむ環境・習慣が全国より弱い傾向にある。これが国語や各教科の「記述力・読解力・情報の扱い方」の課題に影響を与えている可能性がある。

3 自尊感情、人間関係、学校生活に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
8	自分には、よいところがあると思う	87.0	85.6	83.9	84.0
9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	92.8	91.4	91.8	90.9
12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	97.0	96.2	95.5	95.1
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	72.5	70.6	73.1	71.9
14	人の役に立つ人間になりたいと思う	96.9	95.8	96.3	95.9
15	学校に行くのは楽しいと思う	86.2	85.7	86.3	85.4
17	友達関係に満足している	92.5	91.1	92.8	91.2
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか【よくある+ときどきある】	93.4	92.5	92.1	91.0

分析

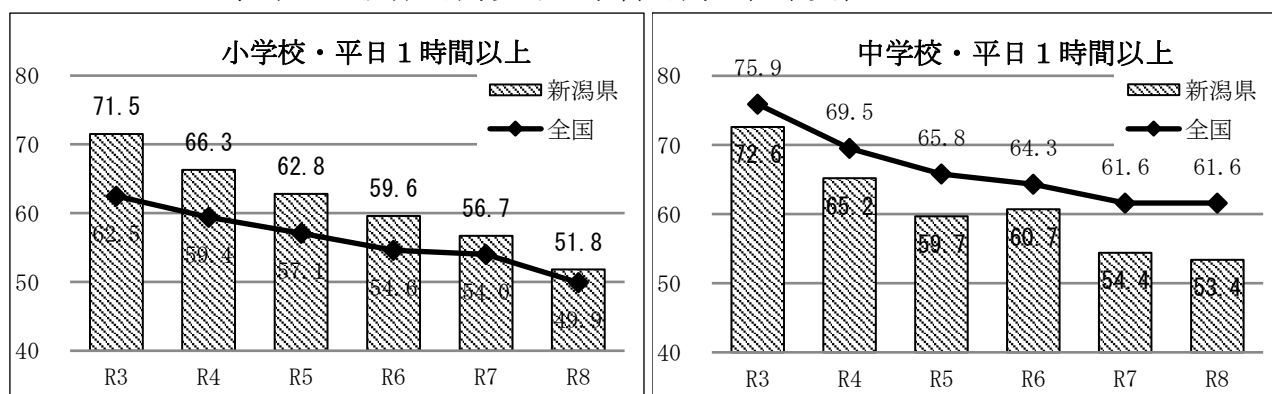
自分自身の価値を認め、他者を思いやり、社会に貢献したいという高い志を持つ児童生徒が多く、日々の生活に幸福感を見出している割合も全国平均を上回っている。9割以上の子どもたちが友達関係に満足しており、いじめを許さないという規範意識も高い。

また、先生が自分のよさを認めてくれているという実感も全国平均を上回っており、学校を心理的に安全な場所と感じている児童生徒が多い。

4 学習習慣、学び方に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
22	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている	82.2	79.4	80.2	78.2
23※	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	【2時間以上】			
		11.7	21.6	16.9	30.1
		【1時間以上】			
		51.8	49.9	53.4	61.6
29	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）【100冊以上】	26.3	30.7	27.6	31.3

※ 23 について、平日の授業時間以外の学習時間の経年変化



分析

指示された学習をこなすだけでなく、自ら学び方を考えて工夫できる児童生徒の割合が全国平均を上回っており、主体的に学ぶための土台が育っていることを示している。

その一方で、家庭学習の時間の圧倒的な少なさが見える。特に「2時間以上」の割合が全国平均の半分程度しかなく、中学生においては1時間以上の割合でも全国を大きく下回っている。新潟県の子どもたちは、学年が上がるにつれて家庭学習を長時間継続する習慣が不足している現状が浮き彫りになっている。経年変化では、平日1時間以上家庭学習に取り組む割合は、小学校では全国平均を上回っているものの、中学校では下回っており、いずれも減少傾向が見られる。

5 授業の受け方、学級の雰囲気に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
20	あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う	73.7	69.6	72.3	67.5
42	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	88.6	85.7	89.4	87.0

分析

児童生徒の学級における心理的安全性と、協働的な学びの実践度の高さがうかがえる。また、話し合い活動が単なる形式的な作業に終わらず、他者の視点を取り入れて自分の考えをアップデートさせる「質の高い対話」として機能していることを示している。

6 ICTの活用に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
35	5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 【ほぼ毎日】	48.7	43.0	62.1	55.1
36 -1	PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができる	79.9	79.1	85.8	84.8
36 -2	インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができる	86.1	84.9	91.2	90.9
36 -3	PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる	70.3	69.5	71.1	69.4

分析

授業内での端末活用はすでに日常化しており、教員・児童生徒ともにICT機器を授業のツールとして当たり前を使いこなす土壌ができている。

7 各教科への意識

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
52	国語の勉強は得意だ	64.8	60.4	53.8	51.6
53	国語の勉強は好きだ	59.3	57.4	55.7	57.2
54	国語の授業の内容はよく分かる	84.9	81.5	78.4	76.8
小 59	小国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていた	80.2	78.3		
中 58	中 国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていた			86.2	84.8
60	算数（数学）の勉強は得意だ	59.2	60.1	49.6	48.5
61	算数（数学）の勉強は好きだ	55.7	57.6	55.2	56.1
62	算数（数学）の授業の内容はよく分かる	77.6	77.5	76.0	74.2
66※	算数（数学）の授業でどのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていた	64.7	63.0	62.6	60.4
69	英語の勉強は得意だ	59.7	59.8	40.0	39.5
70	英語の勉強は好きだ	65.7	66.7	50.7	51.2
中 71	中 英語の授業の内容はよく分かる			65.0	64.2
小 72 中 75	学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙を書く、英語のテレビや動画、HP を見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	38.7	46.2	30.8	36.6
小 73 中 76	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話す練習をしたりしていますか 【週 1 回以上】	25.9	29.7	20.9	24.5

※ 66 について「説明する活動をよく行っていた」と答えた生徒の、説明する問題の正答率（一部）
小学校・算数

問題 番号	問題の概要	当てはまる	どちらかと言えば、 当てはまる
1 (4)	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く（全国 45.2）	51.8	41.5
3 (3)	$7/3$ と $7/4$ のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く（全国 44.0）	52.3	42.7
4 (1)	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表 1 と表 2 の中から書く（全国 56.2）	60.0	55.0

問題 番号	問題の概要	当てはまる	どちらかと言えば、 当てはまる
6 (3)	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く(全国 44.6)	50.5	43.6
7 (2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する(全国 33.9)	41.1	33.0

分析

【国語への意識】

日常の授業に対する理解度は高く、教職員による丁寧な指導や、温かく話し合いやすい学級の雰囲気が「国語の勉強が得意だ」「授業は分かる」という実感につながっている。授業では、自分の考えをまとめる活動や、対話を通して考えを深める活動、文章を推敲する活動など、多様な言語活動が展開されている。しかし、教科の調査では、すべての内容について平均正答率が全国より低い。漢字を書く力や語彙力といった基礎的な学力や、情報を整理する力や文章を読み取る力の向上に資する授業改善が求められる。

【算数・数学への意識】

小学生の時点で全国平均を下回る苦手意識が見られる。中学生になると全国平均をわずかに上回るものの、肯定率は5割を割り込んでおり、半数以上の生徒が数学に苦手意識を抱いている。授業の中では、県が推進してきた「主体的・対話的で深い学び」や、お互いの考えを大切にする協働的な授業づくりが、算数・数学の授業における「説明活動」の多さとして表れている。その一方で、「説明する活動をよく行っていた」と答えた児童生徒の説明する問題の正答率は必ずしも高くなく、特に「どちらかと言えば」と答えた生徒については多くの問題で全国平均を下回る。

【英語への意識】

実際の学力(IRTスコア)は全国を大きく下回っているものの、得意意識自体は全国平均と同等(4割)を維持している。これは、子どもたちが英語に対して苦手意識を抱いているわけではないことを示している。一方、小・中ともに日常的に英語に触れる・使う機会が全国平均を大きく下回っている。特に中学生では約3割にとどまっており、授業外で英語を「生きた言葉」として体験する機会が著しく不足している。また、持ち帰り環境が極めて優れているにもかかわらず、家庭で端末を使って「英語の音を聞く」「話す練習をする」といった音声トレーニングの宿題提示や活用頻度は、全国平均を下回っている。端末の使用環境が充実していることが英語の学力向上に結びついていない。

授業についての好反応と、正答率の低さのねじれについての分析

1 「授業での協働」と「家庭での個の学習」の断絶

授業内では「友達と協力して課題を解決する」ことに意欲的であるにもかかわらず、放課後になると家庭学習時間が全国平均の約半分に激減し、長時間のスクリーンタイムに流れてしまっている。授業で高まった「学びの熱量」や「対話で得た気づき」を、家庭で一人でじっくりと復習し、自分の知識として定着させる「個の学習体力（粘り強さ）」が不足している。

2 「話し合いの楽しさ」が「論理的なアウトプット」に結びついていない

授業での話し合い活動を通じて「自分の考えを深めている」と実感している一方で、各教科の結果から、「記述式問題の無解答率の高さ」や「論理的な説明・記述力の弱さ」等に課題が見られる。

国語： 複数の情報を整理・要約して関係性を捉え、記述する力が不足

数学： 数学的な根拠を基に説明・証明する問題での正答率が低い

英語： 論理的記述を求める自由英作文の正答率が2割台

これは、授業中の「話し合い（口頭でのやり取り）」による楽しさや安心感に満足してしまい、それを「自らの言葉で論理的に書き表す（記述・アウトプット）」という、もう一步踏み込んだ個人の思考・表現活動にまで昇華しきれていない可能性を示唆している。

学校質問調査の結果分析

数値は肯定評価の割合合計、単位は％
網掛けは全国平均と比較して懸念される方向に３ポイント以上の差がある項目

１ 調査結果の活用に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
小 84 中 92	令和 7 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用を【よく行った】	29.2	39.3	23.5	29.8

２ 校内研修の質と頻度に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
14	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを【月に数度以上】行う	78.8	79.5	58.7	65.2
15	教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを【月に数度以上】行う	90.9	89.4	75.6	79.0

３ 対話、説明の機会に関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
32	学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した	96.7	95.2	95.3	94.6
33	授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	88.9	89.5	87.8	85.4
51※	算数（数学）の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったかなどについて、根拠を明確にして生徒に筋道立てて説明させるような授業を行った	94.9	95.8	95.3	95.7

※ 51 について、「説明させるような授業をよく行っていた」と答えた学校の生徒の、説明する問題の正答率

小学校・算数

問題番号	問題の概要	当てはまる	どちらかといえば、行った
1 (4)	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く (全国 45.2)	42.5	39.1
3 (3)	$7/3$ と $7/4$ のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く (全国 44.0)	43.3	40.6
4 (1)	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表 1 と表 2 の中から書く (全国 56.2)	54.4	52.4

中学校・数学

問題番号	問題の概要	よく行った	どちらかといえば、行った
3	四角形 P Q R S において、P S 平行 Q R を示すための根拠となる二つの角を書く (全国 49.1)	47.8	45.6
6 (3)	四角形 P Q R S において、P S 平行 Q R を示すための根拠となる二つの角を書く (全国 44.6)	40.7	40.6
7 (2)	データ量が 1000MB になるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する (全国 33.9)	30.8	30.5
8 (2)	図において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する (全国 46.1)	44.8	43.9
9 (3)	「就寝時刻が 23 時より前の生徒と比べて、23 時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する (全国 31.9)	30.2	30.7

4 ICT の活用に関すること

質問番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
小 65 中 73	調査対象学年の児童（生徒）が 自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面 では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を【週 1 回以上】使用させている	78.3	80.2	61.4	70.7
小 67 中 75	あなたの学校では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、【毎日】 家庭 で利用できるようにしている	66.0	43.2	82.1	53.2

5 振り返りに関すること

質問 番号	質問事項	小学校		中学校	
		県	全国	県	全国
35	関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける 学習活動を行った	90.1	91.7	90.6	90.6

分析

端末の家庭持ち帰り率の圧倒的な高さから、家庭で毎日端末を利用できる環境づくりが進んでいることが分かる。また、授業における ICT の日常的活用について、全国を上回るペースで日常化が進んでいる。小中共に、他者と協働する学習課題の工夫として、他者と情報交換し、話し合う活動の工夫は教員側が意図的に協働的な学びを取り入れていることが分かる。しかし、それが必ずしも正答率を高めることにつながっていないことが明らかになった。

一方、学力調査結果の学校全体での活用不足と、特に中学校において教員間の授業・学級に関する対話頻度の低さが課題である。